

東日本ユニオン よこはま

JR 東日本労働組合
横浜地方本部
発行者/小清水和彦
編集者/ 業務部

夏季手当第2回交渉開催!!

6月4日に本部・本社間において夏季手当の「第2回団体交渉」が開催されました。

会社の主な説明

- 会社の発展こそが社員還元のためさらなる充実、働きがいの向上、社員・家族の幸福の実現につながる。
- 会社発足後、初めて大幅な赤字を計上する厳しい経営状況であり、健全な危機感を持ち、支給水準については例年に比べて極めて慎重に判断しなければならない。
- 投資についてはしっかり取り組む。種をまいて育てなければ会社の未来はない。安心して働いてもらうために環境整備は大事である。
- 賃金が重要なのは理解しているが「変革 2027」を実現させることにより、社員が安心して働ける環境ができる。社員の安心のためには、まず赤字からの脱出である。

組合の主な主張

- 根拠ある投資は赤字下でも否定はしないが、会社の持続的成長のため「だけ」の投資ではダメ。施策を担う社員への投資が行わなければ、社員と会社の持続的な成長はない。
- 決算や経営体力を見て、東日本ユニオンは「3.0ヶ月でも支払える」と認識している中で、中長期的に振り返り、健全な危機感にも配慮しつつ慎重に判断し2.8ヶ月を要求している。
- 今年度は定期昇給「2」係数となり、昨年と今年とでは違う。
- 社員は生活の安定・安心を求めている。賃金・手当の削減は人材流失を招く恐れもある。
- 過去最高の会社業績をあげ、右肩上がりの業績の中でも夏季手当は2.91ヶ月の横ばいであった。その当時、経営側は「経営が苦しくなったときも安定支給ができるように」と回答している。

組合員・社員の想いを基に、2.8ヶ月をはじめとする4項目の満額回答を強く求めました。
声を出さなければ、変わらない!!
夏季手当の要求満額獲得に向け、
たたかいをつくりだそう!!